



▲昭和27年10月、「秋の清掃週間」で旧市役所前（現在のサンプラザ1号館付近）に勢揃いした肩引き車（写真上）と3輪トラック（同下）。



▲約60台のバックカー車が週2回、市内全域を回って家庭ごみを収集しています。



市民の快適な暮らしを支える

ごみ収集

現在のような市による定期的なごみ収集が始まったのは、戦後間もない昭和23年9月のこと。地域は枚方小学校区（当時）のみと限られていましたが、やがて市内全域へと拡大していきました。当初は「肩引き車」と呼ばれる人力車のみでしたが、能率を上げるために3輪トラックを導入し、さらに3輪ダンブカーを使用するようになりました。昭和43年から収集業務をしている60代の男性は「ハンドルを切ると運転席がガクツと傾いて何度も頭をぶつけました」と懐かしそうに振り返ります。当時は週1回、各家庭の玄関先を一軒ずつ回る戸別収集で、「ごみを集めるための大きなかごを紐で引っ張りながら歩き、鐘をカランカランと鳴らして収集に来たことを知らせていました」。分別という考え方はまだなく、あらゆるごみが一緒になっていたため、かごの重さは相当なものでした。「ダンブカーに積みば積むほどかさ高くなるので、荷台の一番上に積むのが重くて大変でね」。それでも、夏の暑いときにタオルを差し出してくれたりお茶を用意してくれたりと、市民の感謝の気持ちに癒されたそうです。

3輪ダンブカーは、昭和40年代に入ると回転板でごみを圧縮して大量に収集するバックカー車へと徐々に入れ替えられ、戸別収集も、人口増加に対応するため昭和53年から現在のごみステーション方式となりました。ビンやガラス、空き缶、プラスチックなどの分別も進み、ごみ収集は市民の快適な暮らしを支え続けています。

（平成23年6月号）